

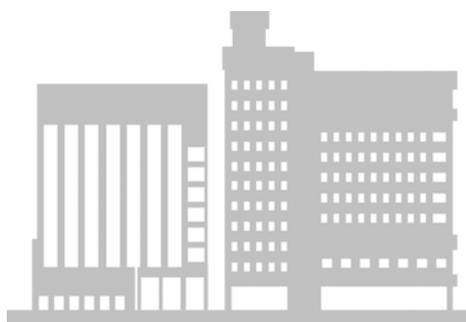
1. アンケート結果からみる暮らしの実態と求められる賃上げ

- 賃金・暮らしの実態アンケート（まとめ）
2023年9月28日～11月2日

シンポジウム

「暮らせる賃金と生業を自治体がつくる」での
馬場紘平議員の報告（P54～）

- アンケートでよせられた声



賃金・暮らしの実態アンケート結果まとめ

集計は2月末までにインターネットで寄せられたものを含んでいます

◆深刻さを増す暮らしの実態

生活の実感について、「かなり苦しい」「やや苦しい」との回答が60.5%と、コロナの影響に異常な物価高が追い打ちをかける実態が浮き彫りになりました。(図1) さらに、年代別に見ると、30代(59.3%)、

40代(54.3%)、50代(71.2%)と、働き盛りの層でより深刻な実態になっていることがわかります。(図2) 加えて、働き方では、非正規労働者で72%と突出していることも重大です。

自由記入では、「いくら節約しても支出が増えていく。手元にお金が残らない。」「財布の1万円がすぐなくなる」「5年後・10年後どうなっているのか見通せない」「すべてに負担を感じる」「お金の心配ばかり。しんどい…」など、暮らしの悲鳴があふれています。

図1 生活の実感

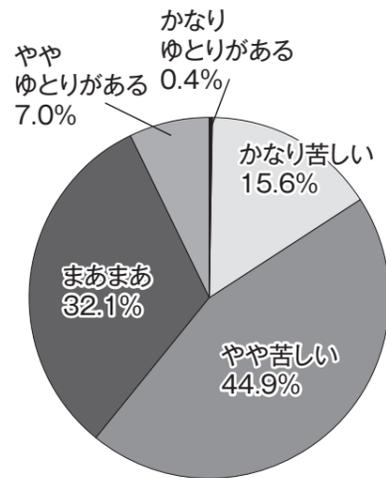
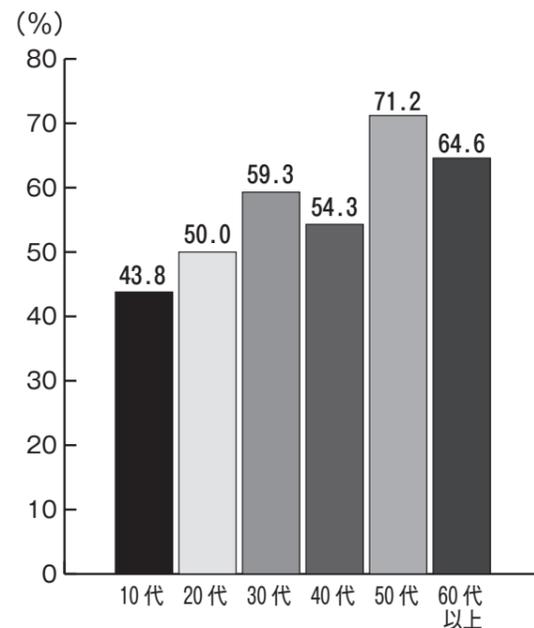


図2 かなり苦しい・やや苦しい(年代別)

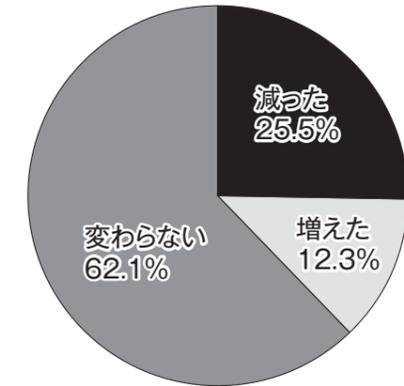


◆上がらない賃金

暮らしの厳しさの背景に、上がらない賃金があることもアンケートの結果は裏付けています。

「前年と比べて収入は怎么样了か」という問いに、実に62.1%が変わらないと回答し(図3)、減ったという方も25.5%に上りました。「50歳で昇給ストップ」「残業が減って4万円減」など、「賃上げが始まった」「継続的な賃上げのための支援が必要」という知事の認識とは、大きくかけ離れています。また、「増えた」と答えた方の中にも、「最低賃金が上がった分増えた」「(介護職で)コロナ補助金で増えた」など、抜本的な賃上げとは程遠いのが実態です。

図3 前年と比べて収入は怎么样了か



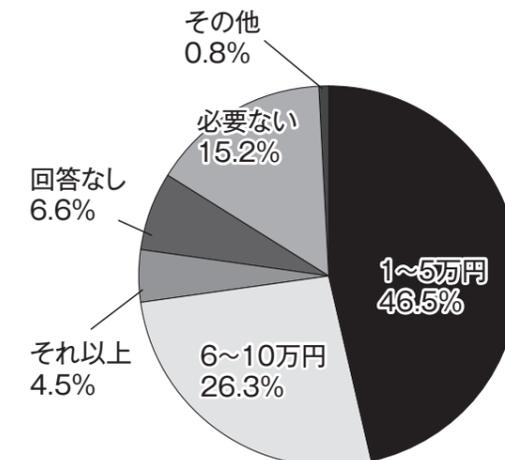
◆最賃1500円待ったなし

そうした中で、「生活実感からどれくらい賃上げしてほしいか」との問いには、46.5%が「1~5万円」、26.3%が「6~10万円」と回答しています。(図4)「生活実感から必要な賃金額は？」との問いには、多くの方が具体的な賃金額を書きいただきましたが、その平均額は25万6733円となりました。

実現するには、1日8時間、週5日勤務で、時給1,604円が必要になります。

ようやく京都府の最低賃金が1000円を超え、昨年10月から1008円となりました。岸田首相は「2030年代半ばに、1500円を目指す」としています。しかし、求められているのは、今すぐ最低賃金1500円を決断し、さらなる引き上げのために抜本的な手立てを打つことです。

図4 生活実感からどれくらい賃上げしてほしいか



◇正規雇用化+抜本的賃上げが必要

30~40代の方で「ようやく正規になれた」という方がいらっしゃいました。そうした方に共通するのは「それでも先が見通せない」という声です。「正規雇用になって1年」という40代の男性は、「手取り15万円。生活は苦しい。あと1~5万円は必要」と話されました。正規雇用が当たり前に戻すことはもちろん、同時に生活できる賃金を実現することが必要です。

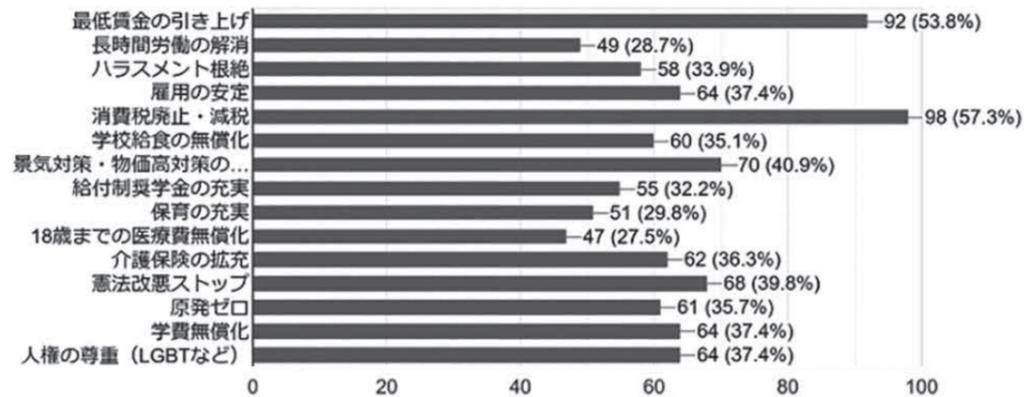
◇政治に求められるものもクッキリ

複数回答可として「今の政治に求めるものは？」との問いへの回答は、57.3%が「消費税減税・廃止」、53.8%が「最低賃金UP」、40.9%が「景気・物価高対策」と続きます。また、「教育の無償化」「給食費の無償化」「子どもの医療費の無償化」「学費の無償化」など、子育てにかかる経済的負担の軽減を求める項目のいずれかを選んだ方は53.8%に上ります。(図5)

暮らしや子育てをしっかりと支える政治の責任が改めて問われています。

図5

※すべての方にお聞きします※ 実現してほしいことはありますか？
171件の回答



アンケートで寄せられた声

◎9月28日 @四条烏丸 (夕方)

対話15人

具体的な声

「(会社が)業績悪化したため残業すると言われて、(給料が)年間で100万円の減」
(50代・男性)

「ようやく正規になったが、生活は苦しい。賃上げてほしい」(40代・男性)

「大学、高校の子どもがいるが、一定収入があると全く支援がなく大変」(50代・男性)

◎9月29日 @四条大宮 (夕方)

対話11人

具体的な声

「インボイスは廃止しかない」(60代以上・男性・事業主)

「自民党は解党して!」(10代・男性)

「奨学金返済ようやく終わった。若い人の賃金を上げてほしい」(50代・女性)

「税・社会保険料が高すぎる」(30代・女性)

◎10月2日 @西院 (夕方)

対話6人

具体的な声

「平均年収450万といわれるが、全く実感ない」(60代)

「時給1500円実現してほしい」(フリーランス女性)



○10月3日 @烏丸御池 (昼)

対話16人

具体的な声

- 「教育費が思った以上に重い。せめて高校までは年収に関わらず無償にしてほしい」
(40代・女性)
- 「暮らせるようにしてほしい」(60代以上・男性)
- 「一般事務で働いているが、給料上げて人を増やしてほしい」(20代・女性)
- 「少子化は政治の責任」(60代以上・求職中)

○10月4日 @北野白梅町 (夕方)

対話19人

具体的な声

- 「議員の処遇を見直してほしい」(60代以上・女性)
- 「実家から通っているのでもそこまで負担は感じていない」(10代・男性)
- 「税金の使い方を考えてほしい」(40代・女性)
- 「滋賀の大学へ通っている。下宿したいがお金がかかりすぎる」(20代・女性)
- 「(政治には) 期待半分、失望半分」(40代・女性)
- 「物価高に賃上げが追い付いていない」(30代・女性)
- 「大学生の子ども2人。一人は東京。仕送り10万円。国公立だが私学と変わらない」
(50代・女性)

○10月5日 @四条烏丸 (昼)

対話9人

具体的な声

- 「社会保険料負担を考えると人を雇えない」(50代・男性・事業主)
- 「実家暮らしで家に3万円入れている」(20代・男性)
- 「消費税は廃止して。(国は) 34年前から騙している」(フリーランス・女性)
- 「大学学費心配」(10代・女性)
- 「残業禁止で収入減」(50代・男性)
- 「賃上げより消費税減税してほしい」(50代・男性)

○10月6日 @二条駅 (夕方)

対話6人

具体的な声

- 「仕事探すが見つからない。障害年金上げてほしい」(30代)
- 「食品の値上げは困る。節約してもまた値上げ」(50代・女性)

○10月10日 @北大路駅 (夕方)

対話5人

具体的な声

- 「独身の人の保障も考えてほしい」(30代)
- 「将来が不安。親のような収入を得られると思えない」(20代・学生)
- 「インボイスはやめて!」(20代・男性)

○10月11日 @烏丸御池 (夕方)

対話9人

具体的な声

- 「夫婦で非正規。夫はボーナスもない。消費税を上げるなんてとんでもない!」(50代・女性)
- 「保育園に入れず、待機児ゼロは嘘。半年間、孫の面倒を見た」(60代以上・女性)
- 「私たちのことを見て、ちゃんとした政治をしてほしい」(20代・女性)
- 「子ども一人を大学にやるのでアップアップ。2人は育てられない」「子どもの給料は自分の若いころと比べても変わっていない。むしろ税金が増えて大変」(50代・男性)
- 「地下鉄運賃が高すぎる」(40代・女性)
- 「政治に嘘が多すぎる」(50代・女性)



○10月12日 @四條大宮（夕方）

対話9人

具体的な声

- 「1回の買い物を1000円以内に抑えている」（10代・男性）
- 「全体の給料の底上げを」（40代・女性）
- 「自民党の政治は弱い者いじめ。大元から変えてほしいけど…」（60代以上・男性）
- 「万博にお金使うなら庶民に使ってほしい」（50代・男性）
- 「非正規の処遇改善必要。同じ職場で同じ仕事をしているのに」（50代・女性）

○10月13日 @出町柳

対話6人

具体的な声

- 「物価高騰で生活大変。」（60代以上・女性）
- 「給食制度の充実してほしい」（40代・男性）
- 「インボイス廃止！」「大企業優遇はやめてほしい」「（伝統工芸4代目）コロナ前は一つの仕事で100万円。今は20～30万円。跡継ぎの息子はダブルワークでビルメンテナンス」（60代以上・男性）
- 「時給あと300円ほしい」（20代・男性）

○10月16日 @二条駅（夕方）

対話9人

具体的な声

- 「少子化対策というなら学費無償は絶対。子ども3人私立大で、数千万円はかかった」（60代以上・女性）
- 「軍事費減らして福祉に回してほしい」（50代・男性）
- 「年金をせめて10万円に」（60代以上・男性）
- 「家族4人。もう少し手取りを増やしてほしい」（60代以上・女性）

○10月17日 @西院（夕方）

対話10人

具体的な声

- 「国民の実態を見てください！」（60代以上・女性）
- 「家賃高い。そのために働いているようなもの」（50代・女性）
- 「義務教育なのに、給食費・教材費など負担重い」（30代・女性）
- 「9時間勤務が普通になっている。休みほしい」（20代・女性）
- 「60代以上の労働条件も改善してほしい」（60代以上・女性）
- 「再雇用の教員だが、担任も持っている。しかし、収入は半分になった」（60代以上・男性）

○10月18日 @四條烏丸（夕方）

対話7人

具体的な声

- 「心臓病で通院しているが、薬代が高い」（50代・男性）
- 「議会ちゃんとやって！」（20代）
- 「教員はしんどそうで塾講師になった」（30代）
- 「物価高騰で暮らし大変」（女性）

○10月20日 @四條大宮（夕方）

対話5人

具体的な声

- 「食料品高すぎる」（50代・女性）
- 「何年も洋服買ってない」（50代・女性）
- 「正規の人と同じ働きなのに給料が安い。あと10万は欲しい」（50代・女性）
- 「何とか生活している。教育費の負担軽減を！」（20代・女性）



○10月25日 @北野白梅町 (夕方)

対話8人

具体的な声

- 「作り置きなどして水光熱費を節約している」(60代以上・女性)
- 「夫の収入減った。自分は(扶養家族のため)103万円以内におさえているので、最賃が上がっても賃上げの恩恵なし」(60代以上・女性)
- 「国の政治はムチャクチャ」(20代・男性)
- 「(政治家には)庶民の生活を味わってほしい」(10代・男性)
- 「消費税廃止。それが一番」(60代以上・女性)

○10月26日 @二条駅 (夕方)

対話11人

具体的な声

- 「学費・住居費の軽減を」(10代・女性)
- 「憲法を守って政治をしてほしい」(60代以上・男性)
- 「京都市の観光地化に境界がなくなっている」(30代・男性)
- 「物価と生活保護費が連動しないと生きていけない」(40代)

○10月27日 @北大路 (夕方)

対話1人

具体的な声

- 「ストロー買い替えて消費税の高さにびっくりした」「夫が亡くなって、どう考えても生活費が足りない」(60代以上・女性)



○10月30日 @烏丸御池 (夕方)

対話13人

具体的な声

- 「実家だから何とか生活できている。一人暮らしは無理」(20代・女性)
- 「デザイナーを目指しているが、賃金低いといわれていて不安」(10代・女性)
- 「あと時給で500~700円上がってほしい(現在1100円)」(50代・女性)
- 「将来の教育費が不安」(40代・女性)

○10月31日 @四条烏丸 (夕方)

対話3人

具体的な声

- 「40代半ばから昇給がないため、将来の貯えできない」(50代・女性)
- 「(医療従事者) ボーナスが1回なかった」「お金だけでなく、社会保障や福祉の充実も」(30代・男性)
- 「給付金だけでは足りない」(60代以上・男性)

○11月1日 @JR山科駅 (夕方)

対話6人

具体的な声

- 「ジョブパークに通っている。65歳以上になったら清掃の仕事くらいしかない」「布団ボロボロだけど買えない」(60代・女性)

